今西貴大さんとA子ちゃん

今西貴大さんは、2017年の秋に1年ほど交際していたＢさんと結婚し、Ｂさんの子どものＡ子ちゃんを養子にしました。血はつながっていませんでしたが、今西さんはＡ子ちゃんのお父さん同然の存在でした。

A子ちゃんを公園に連れて行くのは今西さんの役割でした。仕事から帰ってくれば、A子ちゃんをお風呂に入れたり、おむつをかえたり、なかなか寝つかないときは添い寝をしたりしていました。休日には家族でお出かけをしたりして、とても仲がいい親子でした。

ある日、幸せな生活が
一変しました...

https://innocenceprojectjapan.org/contact/

https://innocenceprojectjapan.org/imanishi/

イノセンス・プロジェクト・ジャパン
SBS検証プロジェクト
今西貴大さんを支援する会
今西事件弁護団

Innocence Project Japan

今西貴大さんのことを
ご存じですか？

虐待えん罪・今西事件について
知っていただきたいこと

ver. 1

A子ちゃんの異変

2017年12月16日、A子ちゃんは、元気がありませんでした。A子ちゃんは数日前から咳や下痢をしていましたが、その日は少し熱っぽい様子で、夕食のパスタも少し残しました。夕食後、Bさんは外出し、今西さんとA子ちゃんの二人になりました。

今西さんはA子ちゃんを元気づけようと思い、A子ちゃんを抱き抱え、布団の上でゴロゴロと転がる遊びをしました。A子ちゃんはいつものようにケラケラ笑いました。すると、急に「うっ」という声がして、A子ちゃんの笑い声が消えました。A子ちゃんの顔色はみるみる悪くなり、呼吸も止まっていました。今西さんはすぐに119番をし、必死で心臓マッサージをしましたが、数分後に救急隊が駆けつけたとき、A子ちゃんの心臓は止まっていました。Ａ子ちゃんの心臓は搬送された病院で動きを取り戻しましたが、約1週間後の2017年12月23日、搬送先の病院で亡くなってしまいました。

心臓突然死の可能性

Ａ子ちゃんが亡くなった後、心臓から心筋炎の痕跡が発見されました。心筋炎は、風邪のような症状から、突然心臓の異常を引き起こし、最悪の場合には死に至ることもある恐ろしい病変です。A子ちゃんは心臓突然死だった可能性があることが明らかとなりました。

心臓が停止すると酸素が体に行きわたらなくなり、脳が深刻なダメージを受けます。血管の壁はもろくなり、出血しやすくなります。そのため、心拍が再開して血液が流れると、脳に出血が生じます。A子ちゃんの脳にはこのような異変が生じました。

裁判の経過

検察官は、Ａ子ちゃんが今西さんに暴行を加えられて亡くなったと主張しています。

さらに、検察官は、裁判官や裁判員に虐待親であるとの印象を抱かせるべく、当時は誰も今西さんの虐待の痕跡だとは疑っていなかった足のケガやおしりの小さな傷が今西さんの暴行によるものだと主張しました。

今西さんは、足のケガについて傷害罪、おしりの小さな傷について強制わいせつ致傷罪、亡くなったことについて傷害致死罪が成立するとして起訴されましたが、どれもえん罪です。

一審では傷害罪について無罪となりましたが、強制わいせつ致傷罪と傷害致死罪で懲役１２年の有罪判決が下されました。弁護団は即日控訴し、現在控訴審で無罪を主張して闘っています。検察官は無罪となった傷害罪について控訴しました。

控訴審での争点

検察官は一審で、脳の中心部にある脳幹に損傷があったという解剖医や外力によってできた微小な血腫がCT画像で確認できたという脳神経外科医の意見に依拠して、Ａ子ちゃんは今西さんの暴行（外力）によって脳幹に損傷を生じ、その結果亡くなったと主張しています。しかし、弁護側の病理医（顕微鏡を用いて人体を細胞レベルで見て原因を究明する専門医）は、解剖写真をみても、顕微鏡で脳の組織をみても、脳幹の損傷は見当らないと明言しています。また弁護側の放射線科医は、CT画像をCT値という客観的指標に基づいて考察して、脳幹の損傷や検察側脳神経外科医が指摘する微小血腫の所見がないと明言しました。一審の有罪判決が誤った医学鑑定に依拠していることが明らかとなっています。

そもそも、立証責任を負っているのは検察官ですから、A子ちゃんの頭蓋内出血が外力によるものであることを立証する責任は検察官にあります。しかし、一審の有罪判決は、弁護側の医師の医学所見を否定することで検察官は立証責任を果たしたと言わんばかりの認定をしています。これは刑事裁判の鉄則を無視した不当な認定です。

一審で有罪とされた強制わいせつ致傷罪について、検察官は肛門周囲の約1センチの傷は異物挿入によって生じたと主張しています。弁護側の医師（肛門科医と皮膚科医）は、その傷はA子ちゃんの皮膚の弱さと相まって自然排便や日常的な動きによっても生じうるものであり、肛門管上皮の状況（傷がないこと）からみて異物挿入によるものとみるのは不合理だとする所見を示しています。A子ちゃんのおしりの傷は虐待が原因で生じるような傷ではないのです。

支援の輪が広がっています

事件が控訴審に移行してから、今西貴大さんはイノセンス・プロジェクト・ジャパンの支援を得ることになりました。また、国民救援会にも支援を要請し、救援会のメンバーや同じくSBS（揺さぶられっ子症候群）仮説により虐待を疑われた家族を中心に「今西貴大さんを支援する会」も立ち上がりました。

最近では、今西事件についての支援集会や勉強会が多数開催され、「無実を信じています」と、たくさんの方から応援の言葉をいただいています。

今西貴大さんへのご支援を、お願いいたします。

**今西事件については、
イノセンス・プロジェクト・ジャパン
のＨＰでより詳しく説明しています。
興味を持ってくださった方は
是非ご高覧ください。**